第５学年１組　外国語科学習指導案

日　時　令和３年９月１７日（金）５校時

場　所　５年１組教室

指導者　T1:若松彩香　T2:Drake Duhaylonsod

１　単元名　　　Unit4　He can bake bread well.

２　単元の目標

　・　身近な人のできることなどについて聞き取ったり、伝え合ったり、話したりする技能を身に付けている。

・　アルファベットの活字体の大文字・小文字について、発音したり書いたりする技能を身に付けている。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【知識・技能】

・　身近な人のできることなどについて、短い話を聞いてその概要を捉えることができる。また、自分や身近な人のできることなどについて、伝え合ったり、話したりすることができる。　　【思考・判断・表現】

・　身近な人のできることなどについて、短い話を聞いてその概要を捉えようとしている。また、自分や身近な人のできることなどについて、伝え合ったり、話したりしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

３　指導計画　（総時数　８時間）

（１）Starting Out　　　　　　　　　　　 　　　・・・・・・・・・・２時間

（２）Your Turn　　　　　　　　　　　　　　　 ・・・・・・・・・・３時間（本時２／３）

（３）Enjoy Communication　　　　　　　　　　・・・・・・・・・・２時間

（４）Over the Horizon　　　　　　　　　　 　　・・・・・・・・・・１時間

４　単元の指導構想

（１）教材観

　　　本単元では、身近な人について紹介する活動を行う。その際に、『can』という表現に触れながら、「できること」や「できないこと」について、登場人物の話を聞いたり、先生や友だちにインタビューしたりすることを通して、情報を集められるようにする。そして、最初は自分や相手のことであるが、だんだんとHeやSheという三人称の表現を学び、「できる」「できない」という表現を組み合わせることで、身近な人を紹介する活動へとつなげていく。

（２）児童観

男子１５名、女子９名、計２４名の学級である。今学期より、特別支援学級の男子児童１名も、交流で授業に参加している。児童は外国語に対する関心が高く、授業に意欲的に取り組むことができる。話す練習に一生懸命取り組み、書く活動では、分からない単語があると進んで質問することができる。しかし、５年生になり教科として学習するようになり、言語材料の難化や読み書きの活動が加わったことで、苦手意識を持つようになった児童もいる。また、思春期ということもあり、発表やコミュニケーション活動に堂々と取り組めない児童も見られる。

（３）指導観

　　　本時では、導入で今年行われたオリンピックの話題を取り入れることで、スポーツが好きな活動的な本学級の児童が、話の概要を意欲的に捉えられるようにする。また、T1とT2のやりとりの中で「Can you ～?」「I can ～.」「I can’t ～.」などの表現を多く取り入れることで、繰り返し聞かせて、本時のインタビューする活動でスムーズに使えるようにさせたい。

５　本時の目標

・　先生や友だちにインタビューをし、自分や身近な人のできることなどについて、伝え合ったり話したり話したりすることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【思考・判断・表現】

６　準備物

　・　教師 ： 教科書、ピクチャーディクショナリー、ワークシート、ピクチャーカード、モニター

　・　児童 ： 教科書、ピクチャーディクショナリー

７　学習過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習内容・活動 | 形態 | 時間 | 〇指導上の留意点　◇評価 |
| HRT | ALT |
| 導入 | １　あいさつをする。２　ウォームアップを行う。　・　クリスクロスゲーム　・　チャンツ３　T1とT2のスモールトークを聞く。４　本時のめあてを確認する。友だちと、できることについて伝え合おう。 | 一斉一斉一斉一斉 | 10 | ○　あいさつやウォームアップ、チャンツを通して、前時までの復習を兼ねつつ、外国語学習の雰囲気作りをする。○　T1とT2のやりとりや映像を通して、本時の基本文である「Can you～?」「Yes,I can.」「No, I can’t.」を繰り返し聞かせることで、本時のめあてを捉えられるようにする。 |
| 展開 | ５　基本文と単語の確認をする。　・　基本文の確認A: Can you ～?B: Yes, I can. / No, I can’t.　・　単語の確認　　メトロラーニング６　ビンゴゲームを行う。　①「Can you～?」で質問し、相手が「Yes,I can.」と答えたマスに〇を付けていく。　②ビンゴが出来たら、T1かT2のもとへ行く。 | 一斉ペア | 30(10)(20) | ・　基本文は、児童が　・　基本文の発音を確聞き取った単語をも　　認し、練習させる。とに示していく。 |
| ○　基本文と単語を確認した後、様々な単語を「Can you～?」に当てはめてたくさん練習させることで、自信を持って次のビンゴゲームを行うことができるようにする。○　T1とT2のデモンストレーションで活動のイメージを持たせる。 |
| ・　活動の具体的な指　○　児童がスムーズに　示を行う。　　　　　　話すことができるよ　　　　　　　　　　　　うに、机間巡視をしながら支援する。 |
| ○　ビンゴになった児童には、教師から「Can you～?」を使った質問をすることで、本時の学習内容が定着しているかを確認する。◇　先生や友だちにインタビューをし、自分や身近な人のできることなどについて、伝え合ったり話したりすることができる。（観察・ワークシート）【思考・判断・表現】 |
| まとめ | ７　本時のまとめをする。８　あいさつをする。 | 一斉一斉 | 5 | ○　本時の基本文をもう一度確認し、本時の振り返りをさせる。○　次時は友だちができることを自分が紹介する活動を行うことを伝え、意欲を持たせる。 |